



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

7. 蒜山地域に適したダイコン品種「NIKURA」

[要約]

ダイコン品種「NIKURA」は、蒜山地域では5月上旬～8月下旬が播種適期で、根重の揃いが良く一斉収穫に適する。さらに、高温期の内部障害や萎黄病の発生も少ない。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室

[連絡先] 電話 0867-66-2043

[分類] 情報

[背景・ねらい]

蒜山地域はダイコンの産地であるが、近年は担い手不足や栽培者の高齢化で収穫作業時の労力が不足し、栽培面積は減少している。そこで、収穫作業委託を前提とした一斉収穫に適する、根重の揃いが良い品種を選定する。

[成果の内容・特徴]

1. 「NIKURA」（図1）の晩抽性は慣行品種「晩々G」に比べてやや劣るが、蒜山地域では5月上旬以降の播種では抽台はない（データ省略）。
2. 5月上旬から8月下旬播種では、収穫期の根重変動係数が慣行品種に比べて低く、出荷規格（0.9～1.3kg）の割合が高く、揃いが良い（図2）。
3. 夏播き作型（6月播種）における内部障害発生程度は、慣行品種「T-770」に比べてやや少ない。秋播き作型（8月播種）における根汁の糖度は、慣行品種「冬職人」と同程度である（表1）。
4. 萎黄病の発生株率及び発病度は、「夏つかさ旬」より低く、「晩々G」及び「T-770」と同程度である（表2）。
5. 加工用として1.5kg以上に太らせても、す入りは少ない（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 真庭市蒜山の高冷地研究室露地圃場（標高450m）における栽培結果である。



[具体的データ]



図1 「N I K U R A」
の収穫期の姿（7月播種）

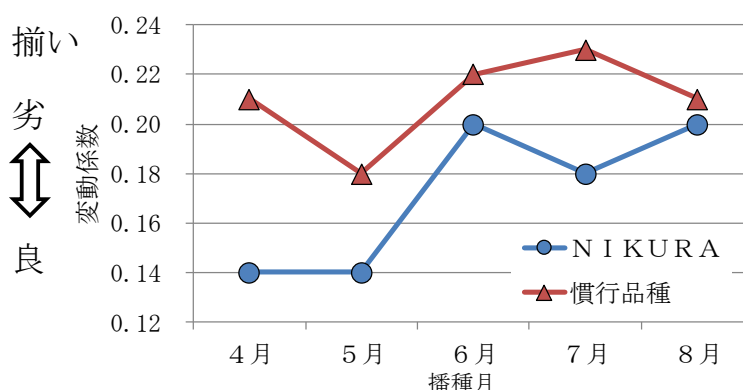


図2 収穫期根重変動係数^zの推移（H29～30年の平均）

^z変動係数：標準偏差/平均

^y慣行品種：4～5月：晩々G、6～7月：T-770、8月：冬職人

表1 夏播き作型（6月播種）における内部障害発生程度及び
秋播き作型（8月播種）における根汁の糖度

品 種	6月播種 内部障害発生程度			8月播種 根汁の糖度
	す入り ^z	空洞 ^z	褐変 ^y	Brix (%)
N I K U R A	1.1	0.0	0.8	5.5
慣行品種 ^x	1.6	0.0	1.4	5.5

^z0：無発生、1：微、2：中、3：甚

^y0：無発生、1：やや潤み、2：強い潤み、
3：潤みが甚または一部褐変、4：褐変が甚

^x慣行品種：6月播種「T-770」、8月播種「冬職人」

表2 萎黄病検定（2018.7.20播種、9.30調査）

品 種	萎黄病	
	発病株率 ^z (%)	発病度 ^y
N I K U R A	13	4
晩々G	14	5
T-770	20	8
夏つかさ「旬」	29	20

^z発病度評価指数1以上の株数/調査株数×100 (%)

発病度評価指数 0：なし、1：根に褐変有り、
2：地上部に病徴あるが生存、
3：地上部はほぼ枯死又は枯死

^y発病度 = Σ（評価指数） / （3 × 調査株数） × 100

[その他]

研究課題名：準高冷地ダイコンの多様なニーズに対応した品種選定と良品生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2016～2018 年度

研究担当者：岡修一

関連情報等：1) [平成 24 年度試験研究主要成果、51-52](#)